

令和元年度 第2回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会会議録

- 1 日 時 令和元年9月26日(木) 午後6時～午後7時30分
- 2 場 所 南砺市役所 利賀行政センター 2階特別会議室
- 3 出席者 委員12名(欠席5名)、アドバイザー2名、事務局4名、商工会1名  
傍聴者なし
- 4 協議事項 (1) 夏季短期山村留学「源流の森と山村の暮らし体験キャンプ」  
の実施報告について  
(2) 冬季短期山村留学「冬休み豪雪の村の自然と暮らし体験キャンプ」  
の実施計画について  
(3) 今後の山村留学定住推進事業の展開について

◎会議録

事務局： ただ今から第2回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会を開催いたします。開会にあたりまして、松本教育長より挨拶をいただきたいと思ひます。

会 長： お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。夏季短期山村留学は皆さんのおかげでいいものになりました。今日は冬の事業を初めて行うこと、さらに今後長期に向けてどのように展開していくか、ご忌憚のない意見を頂きたいと思ひます。

事務局： 次に、故城岸様の逝去に伴う「南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会委員」の欠員補充について、本協議会設置要綱により「南砺市商工会利賀村支部長野原一司」様を補欠委員に委嘱いたしました。

次に会長、副会長の選出について、本協議会設置要綱により野原哲二委員に会長を、副会長には野原一司委員をお願いいたします。

それでは、協議事項に入らせていただきます。

ここからの進行は野原会長さんをお願いいたします。

会 長： それでは皆さんの支援をいただきながら進めていきたいと思ひます。協議事項の(1)夏季短期山村留学「源流の森と山村の暮らし体験キャンプ」の実施報告について南砺市商工会利賀支部から説明をお願いします。

：

商工会： ー 資料1-1～5に基づき、商工会より夏季短期山村留学「源流の森と山村の暮らし体験キャンプ」の実施報告について説明 ー

会 長： 引き続き、育てる会からも報告をお願いします。

アドバイザー： ー 資料1-6に基づき、育てる会より説明 ー

会 長： 今ほどの報告について意見がなければ次に議事に進みます。  
協議事項(2)冬季短期山村留学「雪国の自然と山村の暮らし体験キャンプ」の実施計画について育てる会から説明をお願いします。

アドバイザー： － 資料２－１、２に基づき、育てる会より説明 －

会 長： このことについて委員の皆さまご意見ございませんか？  
冬場ですので移動がなかなかできないようなことも予想されますので、近くの農家体験でお世話なったり雪遊びをしたりする楽しみ方になると思います。  
それでは協議事項（３）今後の山村留学定住推進事業の展開について事務局から説明をお願いします。

事務局： － 資料３－１に基づき、事務局より説明 －

会 長： それではここで学校の意見を聞きたいとおもいます。夏のキャンプに参加した児童生徒からの感想や意見はありましたか？

委員 A： 直接は聞いていません。学校は長期休業中は児童生徒を家庭と地域にお返ししています。武蔵野市との交流事業と重複する期間もあったようですが、各家庭や地域の判断により出席した児童生徒もいたということで楽しかったのではないかと想像されます。この事業はいい事業で、交流というのは子ども達にとっていいことなのでぜひ子ども達に参加してもらえるように考えていきたいと思っています。

会 長： 今の意見を踏まえ南砺市の子ども達への募集についてはどのような対応を計画していますか？

アドバイザー： 冬のキャンプでは南砺市から５名まで募集する予定です。南砺市内の学校にパンフレットを配布します。また地元の利賀の児童については宿泊参加でなくても活動や、農家体験での参加も検討しこれからお願いする予定です。

会 長 受け入れ態勢はの打合せ状況はどうでしょうか？

アドバイザー： 下見も打合せも順調に進んでいます。

会 長 それでは資料３－２について育てる会から説明をお願いします。

アドバイザー： － 資料３－２に基づき、育てる会より説明 －

会 長： 山村留学事業の検討を始めた頃からスターフォレストを拠点施設に活用すればいいという意見は聞こえていたと思います。長期に向けて活動をスケールアップする上で環境づくりは大事なことで、事務局、育てる会、地元も相談・サポートし合ってしっかり進めていきたい所です。委員 B さん、なにか意見はありますか？

委員 B： 事業は進めていかなければいけないと思うが、問題は費用とどれくらいかかるか、留学生が集まるかということ。また、地元の子どもへの効果が大事。

会 長： そのとおりで大きな目的はそこにあるのではないのでしょうか。

事務局： 地元ということであれば、計画では一ヶ月、３０日の内、２０日間はセンター、１０日間は地元の農家さんで過ごすということになっています。短期では主に民宿さんのほうで宿泊させていただいていますが、長期では地元農家さん

の受入れ体制が無いと進めることができませんので、その準備や調整を進めて行きたいと思っています。

委員 C： 私は夏のキャンプのお手伝いをさせていただきまして、子ども達から農家泊が楽しかったと聞きました。実際の子どもの様子を聞きたいというのが一つ。あと今の利賀の子ども達は川遊びできない子がほとんどです。夏のキャンプでは参加した子どもが川遊びをしていて利賀の子よりも利賀で遊んでいると感じました。保育園や学校では安全管理上難しいのだと思いますが、この事業ではスタッフがいて活動補助していただけるので、ふれあいも大事なのですが活動も一緒に参加させて欲しいと思います。実際そういう声を耳にしています。

委員 D： 3年間、キャンプ等々で農家泊の受入れをしています。利賀以外の子ども達に利賀の魅力を知ってもらおうと今日までできたのですが、いよいよ長期ということで本来の目的に近づいてきました。利賀に来てもらえる、来たい、という子ども達がいるという感触はしています。そういう子が農家に入っていける可能性はあると思います。生活も大事なのですが学校での学びも大事です。学校と子どもとの調整、また地域として受け入れることになる利賀の子、保護者への周知をしっかりと図って相互にとってプラスになる意義を見出さないと何をやってたのかなということにもなりかねません。きめ細かな配慮をお願いし、大事にしないといけないと思います。父兄のみなさんには、これまでの短期では遊びという交流の場で、長期では学びという場で、地元の子と留学生とが馴染んでいくということが大事で、その受け込み方を真剣に考えてもらう方向付けをお願いしたい。そうすれば成功すると思います。

会長： 里親経験のある委員Eさんの意見もお聞かせいただけますか？

委員 E： 里親経験者としての話の前にお聞きしたいことがあります。

センターで20日間過ごす計画とのことですが、センターを運営するにはスタッフがどれくらい必要でしょうか？そのスタッフ、労働力が確保できないときの対応方法はあるのでしょうか？現在利賀では人口減と高齢化により人手不足の声が今現在よく言われています。そのような状況で拠点施設ができて働く人がいないことが心配です。類似施設ではどれくらいの方が働いていますか？

アドバイザー： あくまで想定ですが、このような規模では食事を作る人は1人、もちろん交代でかまいません。それから掃除、管理をする人が1人、週に2、3回。指導員が交代で泊まるので4人程度、事務員が1人。たまに父兄と一緒に宿泊するようなときには食事を作る人はもう1人してもらうことが必要なこともあるかもしれませんが通常であればこのような体制を想定しています。

委員 E： わかりました。できましたら、事前に、前もってそういう情報を流して教えてもらえれば心積りできこともあるのかなと思います。

里親経験ですが、ホームシックは誰にでもあります。やはり馴れて落ち着くものだと、経験上思います。

事務局： 受入れ家庭での受入れ人数は何人を想定していますか？

アドバイザー： よくあるのは子育てを終えて高齢者世帯ですと遊び相手の意味で2人が理想だという場合もありますが、近所に子どもいるようなら1人でもいいですし環境に応じて1人から2人が多いです。3人というケースは少ないです。

委員 F： 一週間の内、土日が農家、平日はセンターということでしょうか？

アドバイザー： 一ヶ月の内、暦や行事を見ながらですが20日間連続してセンターですごし、10日間連続して農家さんで過ごす形です。短期のようにプログラムを詰め込む必要は無く普通にお子さんに接するように過ごしてもらうことになります。

商工会： 昨年、視察させていただいた施設がまさにそのような形でしたが興味深かったのが地域の方、子どももセンターを訪れ、活動をすることがありセンターが地域交流の場になっているということです。単なる宿舎としての拠点ではなく利賀の魅力、文化、歴史、知恵等を伝える拠点に成り得るのではないかと思います。

会長： いろいろな意見をいただきまして、今後の方向性も少しみえてきたのかなと感じています。

事務局から次回開催の予定をお知らせ願います。

事務局： 次回、第3回山村留学定住推進協議会の開催は来年、令和2年の2月頃を予定しております。日程が決まり次第、ご案内をいたします。

それでは委員の皆様には長時間に渡り貴重なご意見をいただきありがとうございました。最後に野原会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

会長 皆様にはお仕事のあとお疲れの所、夜分にお集まりいただきありがとうございました。また市から、遠方からも参加いただき、当地域のため様々な方策を考えていただいていることに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(午後7時30分閉会)